

A-77 実験的 *Pseudomonas fluorescens* および *Proteus vulgaris* 汚染卵の形状について

東海学園女短大 小島 信夫
長谷川成子
○加藤 保子
友松 滋夫

1. 変敗卵に示すパターンと汚染細菌との相関性を知るために、前報において（実験的）大腸菌汚染鶏卵の示すパターンについて報告したが、続いて *Pseudomonas fluorescens* および *Proteus vulgaris* の菌株による汚染鶏卵の示すパターンを観察したので報告する。

2. 新鮮無精卵の内容を無菌的にビーカーに移し、卵白部に菌浮游液を接種、5, 10, 20, 30°Cの温度条件下に貯蔵し、つぎの実験を試みた。実験 1: 1, 2 週間貯蔵後、卵黄、卵白部の細菌数の測定、色調、臭気の観察。実験 2: 2 週間貯蔵後、卵黄係数の測定および蛍光の観察。

3. 卵白部に接種した *Ps. fluor.* はざんじ卵黄部に移行増殖し、貯蔵1週間後には、卵黄部から菌が検出され、貯蔵2週間後では、さらに多くの菌が検出された。また2週間貯蔵後の *Ps. fluor.* 汚染卵の卵白の色調は、うすい黄緑色を呈し、蛍光は強い黄緑色ないしは青味がかかった色調を発し、臭気は異常臭を示し、さらに卵黄が破裂するなど独特のパターンを示した。*Pr. vul.* を卵白部に接種した場合には、多くの実験例の卵黄部から菌が検出されたが、少数例ではあるが卵黄部から菌の検出できないものがあった。2週間貯蔵後の *Pr. vul.* 汚染卵においては、蛍光は灰白色、卵黄の色調は、黒味がかかった赤褐色を示したが、*Ps. fluor.* のそれと対比されるパターンの表現が見られた。